

## 説教ワポイント

### 天国の鍵

マタイ 六・五〜二一

法隆寺の住職の娘さんだったという方が先日、ラジオで話されていました。学生の頃いつも法隆寺表門の鍵をもち歩いていた。鉄製でたいそう重く、ハンドバックからはみ出すほど大きく、ゴツイ。遅く帰った寝静まった夜など、鍵をガチャンと突っ込んで重い扉をギーッと大きな音をたてて開ける。とても恥ずかしかったそうです。

イエスは生ける神の子、メシア」と正しく答えたことで「天国の鍵をあなたに授ける」と褒められた。ペトロ。文字通り、天にも昇る気持ちだったでしょう。しかし、次の瞬間、退け、サタン」と叱られる（二三節）。天国の鍵を授かったはずなのに……。そもそも天国の鍵って一体、どんな鍵

なのでしょう。誰も見た人はいません。

それを持つ事は特権でもありません。むしろ、自分を捨て、自分の十字架を背負って私に従いなさい」とイエスが勧めるほど（二四節）。

イエスも耐ええず叫んだ十字架を私が負う？  
いいえ、違います。血を流し命をかけた主の十字架ではなく、自分の十字架」を背負う。毎日の生活の中で苦手な人がいる、どうしても馴染めぬ仕事がある。どんなに願ってもかなわぬことがある。そこに「あなたの十字架」がある。

何度も逃げ出したくなる、が、その度に思っただす。一番重い、本当の十字架は主が背負ってくださった、と。自分の十字架」を背負ってはじめて見えてくる、主イエスの十字架の恵み。天の扉をひらく鍵とは、私たちが日々向き合う「自分の十字架」のことかもしれません。